

天敵を活かしたチャトゲコナジラミの防除

農業総合センター山間地帯特産指導所

本県のお茶の産地では、侵入害虫チャトゲコナジラミが平成24年に確認され、その後、大量発生しています。吸汁による樹勢の低下や排泄物による「すす病」の被害は減収や製茶品質の低下につながり、茶葉生産に悪影響が生じています。そこで、チャトゲコナジラミの発生活性を把握し、天敵に影響を与えない適期の薬剤防除でチャトゲコナジラミの「すす病」被害を抑制できることを明らかにしました。

発生活性と防除適期

チャトゲコナジラミ成虫の誘殺虫数ピークは5月上旬、7月下旬及び9月上旬の3回でした(図1)。防除適期は若齢幼虫発生期で成虫発生の終息した頃です。葉裏に幼虫がいるので、薬剤散布は裾部から茶株頂部へ向けて、斜め上方に薬液を散布すると防除効果が向上します。

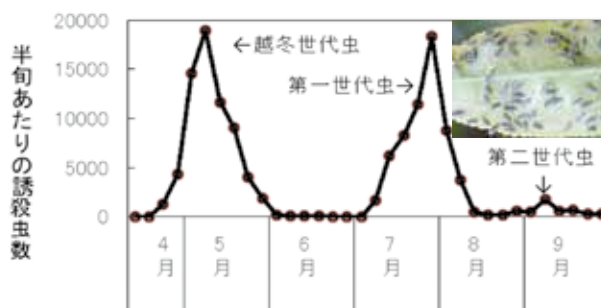


図1 チャトゲコナジラミ成虫の発生活性



写真1 チャトゲコナジラミの有力天敵
シルベストリコバチ(左) クロツヤテントウ(右)

有力天敵の発生を確認

所内茶園で天敵調査を行ったところ、チャトゲコナジラミの有力な天敵シルベストリコバチを本県で初確認しました(写真1)。シルベストリコバチはチャトゲコナジラミの幼虫に産卵し内部寄生したり、幼虫を捕食したりして、チャトゲコナジラミの生息密度を抑制する寄生蜂です。この他、コナジラミ類天敵であるクロツヤテントウ等の発生を確認しました。

天敵を温存した薬剤防除で被害を軽減

チャトゲコナジラミは薬剤が届きにくい葉層深部の葉裏にも生息している難防除害虫ですが、天敵は深部のチャトゲコナジラミも捕食します。天敵は害虫と比べて薬剤の影響を受けやすい傾向がありますので、天敵に影響の少ない薬剤を選択してチャトゲコナジラミを防除することにより、慣行防除と比べてシルベストリコバチへの寄生率が高くなり、チャトゲコナジラミによる「すす病」被害を少なくすることができます(表1)。

表1 天敵を温存した防除によるシルベストリコバチの寄生率維持とすす病被害軽減効果

	寄生率(%)		越冬世代によるすす病被害	
	第1世代幼虫	第2世代幼虫	発生程度*	発生葉率(%)
天敵温存区	18	38	1.8	39
慣行防除区	16	9	3.3	88

*すす病発生程度は、その程度から 株全体に発生を5、成葉の7~9割に発生を4、成葉の4~7割に発生を3、成葉の2~4割に発生を2、0~2割に発生を1、無発生を0とした平均値である。